

2026 SUPER GT Rond 2, 『FUJI GT 3HOURS RACE

GW SPECIAL』

激しい追い上げでポイント獲得寸前まで攻めたものの、
タイヤ交換時の予期せぬトラブルで厳しい結末を迎えた決勝。



●5月4日 (決勝)

富士スピードウェイで開催された 2026 AUTOBACS SUPER GT Round 2 『FUJI GT 3HOURS RACE GW SPECIAL』の決勝は、事前の天気予報をくつがえす晴天下での開催となりました。しかし富士での連勝を目指していた VELOREX にとっては、予選も含めて、予想外に厳しい戦いとなった週末でした。

12時30分から20分間で実施されたウォームアップ走行では、決勝レースに向けての最後の準備が行なわれ、ふたりのドライバーが交代しつつ11周をこなしました。タイム的には1分38秒659で21番手という結果でしたが、ドライバーの片山義章によると、バランスはかなり向上しており、気温、路面温度の上昇に対して更にセットアップをアジャストし、最高の状態で決勝レースを迎えたいとのことでした。

今回のレースでは、6号車UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARIはニクラス・クルッテン選手がスタートドライバーを務めます。ゴールデンウィークということもあり、おそらくシーズン最多となるであろう8万3600人という観客動員数を記録したこのイベントは、華々しいグリッドウォークを終え、ゲストの『私立恵比寿中学』の皆さんによる国家斉唱で、一層の盛り上がりを見せました。

午後2時00分、決勝レースは静岡交通機動隊による白バイ先導のパレードランを含め2周のフォーメーションラップに続き3時間の長いレースは幕を開けました。

スタート時のコンディションは、気温24℃、路面温度43℃、湿度39%という状況で、各チームともここまでの路面温度の上昇は想定していませんでしたし、メインストレートは強い追い風が吹き、レース戦略に大きく影響すると思われます。

決勝スタートは大きなアクシデントも無く、GT300クラスは29台のマシンが激しい競り合いを演じながら一斉に第1コーナーを駆け抜けます。ニクラス・クルッテン選手はふたつポジションを落として23番手で1周目を通過。そこからしっかりとタイ

ヤに熱を入れ、コンスタントなペースを刻みながら着実に前車を追い詰めます。6周目には21番手まで復帰し、19周目には19番手までポジションをアップ。24周目にいち早くピットに飛び込み、片山義章選手に交代。26番手でレースに復帰した6号車 UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARI は予定どおりのハイペースで再び追い上げを開始し、スタートから1時間を過ぎて各チームがドライバー交代にピットインし、途中FCYが出た段階では、11番手まで浮上していました。

15時25分にFCY解除でレース再開となると、VELOREXは2度目のドライバー交代をすべく60周目にピットイン。ドライバー交代は無事に終えたものの、左リヤタイヤが外れず、無線の混乱もあってそのままニクラス・クルッテン選手がレースに復帰。26番手から追い上げを開始し、20番手まで浮上した段階で安全性を配慮し、70周目に予定外のピットストップ。なんとかタイヤ交換を済ませてレースに復帰させましたが、このタイムロスが大きく響き、3時間レースを戦い抜いたものの、23位完走という無念の結果に終わりました。





■片山義章選手のコメント

「朝のウォームアップで気温や路面温度の上昇が気になってはいましたが、決勝までにうまくアジャストできて、レース序盤から中盤までは順調にポジションをアップすることができました。ニクラス・クルッテン選手が前のマシンを抜きあげていたのので、自分が早めの交代を申し出て、前がクリーンな状態でペースを上げる戦略に出ましたが、それが当たってポジションを大きく上げることに成功しました、自分のレース中は速いマシンのスリップを有効活用し、GT500のマシンに抜かれるタイミングも、コーナーへのブレーキングはこちらの方が奥まで攻められていたので、スリップをうまく使ってラップタイムを削って攻め続けました。オーバーが出ててもアンダーが出ててもマシンはとてもコントロールラブルでしたし、エンジニアやメカニックは本当に

良い仕事をしてくれたと思います。ニクラス・クリッテン選手に再度交代した際に、左リヤタイヤが外れなくて交換できないまま走りだしてしまったので、安全のためにピットに戻しました。あれが無ければポイント圏内でフィニッシュできたはずなので、本当に悔しいです。マレーシア大会がキャンセルとなってしまう、次もまた富士大会ですから、気持ちを切り替え、次はリベンジを果たします。スタンドに応援席も設置していただき、ファンの皆さんの声援を感じながら走れました。今日は応援ありがとうございました」



■ニクラス・クルッテン選手のコメント

「マシンのバランスも良く、今日のペースは決して悪くは無かったと思います。タイヤ交換の不運はありましたが、あれがなければ絶対にトップ10に入る自信もありまし

た。素晴らしいマシンを仕上げてくれたチームに感謝していますし、戦略もパーフェクトだったと思います。最後まで攻め切ったので自分自身に満足しています。残念ながら入賞はかないませんでした。結果以上の手応えが感じられるレースでした」

■小倉啓吾チーム監督のコメント

「今日はレースのペースも悪くなかったですし、ピットイン時の左リヤハブのトラブルさえなければと思うと、悔しくて仕方がありません。原因を解明して対処しますが、ピット側から見えていない状況で左前輪を交換した後、左後輪が交換できていなかったままピットを出してしまったのは、新しいスタッフも多く、コミュニケーションの問題でもありますので、そういう面もしっかりと問題点を洗い出さねばなりません。予選で下位に沈んでも、長いレースでは強いチームが上位に残るので、我々も強いチームにならなくてははいけません。トラブルはさておき、最後のスティントではニコラス・クルッテン選手は誰よりも速かったので、我々のマシンにはペースがあることも再確認できました。マレーシア大会がキャンセルとなったので、次もまた富士です。万全の体制を整え、勝ちに行きたいと思っています。今回からスタンドに応援席も設置していただき、皆さんの気持ちの高まりもひしひしと感じますし、頑張りますのでこれからも応援よろしくお願ひします」

■本リリースに関するお問い合わせ：チーム広報 info@teamlemans.co.jp